

# 茨城県小規模事業所給与等実態調査結果から

## 労働統計係

昭和47年の事業所統計調査によりますと、本県の事業所総数は約9万4千、このうち常用労働者30人未満の事業所は約9万1千で、事業所全体の96.9%を占めています。

この調査は、これらの事業所で働く常用労働者の給与等の実態を把握するため、昭和43年以降、毎年12月末日で実施されているものです。

昭和47年の調査結果のあらまはは次のとおりです。

### ○定期給与（きまって支給する給与）

調査産業計1人当たりの平均定期給与は54,369円、これは前年（47,705円）に比べ14.0%（6,664円）の増加となっています。

これを産業別にみえますと、建設業が57,073円と最も高く、ついで卸売業、小売業55,798円、製造業49,338円、サービス業48,792円となっています。

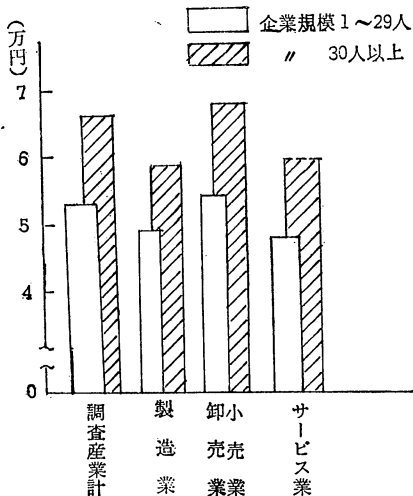
（表1）

表1 産業別定期給与および対前年上昇率

産 業	定 期 給 与			対前年上昇率	
	45年	46年	47年	46年	47年
調 査 産 業 計	42,213	47,705	54,369	13.0	14.0
建 設 業	45,200	52,500	57,073	16.2	8.7
製 造 業	38,578	43,249	49,338	12.1	14.1
卸売業・小売業	40,547	47,811	55,798	17.9	16.7
サ ー ビ ス 業	37,744	42,793	48,792	13.4	14.1

また、事業所の属する企業全体の規模別に定期給与をみますと、企業規模30人以上の事業所の100（66,378円）にたいし、規模1～29人の事業所では79.6（52,

図1 企業規模別定期給与



829円）と規模間の格差はかなり大きいといえます。

（図1）

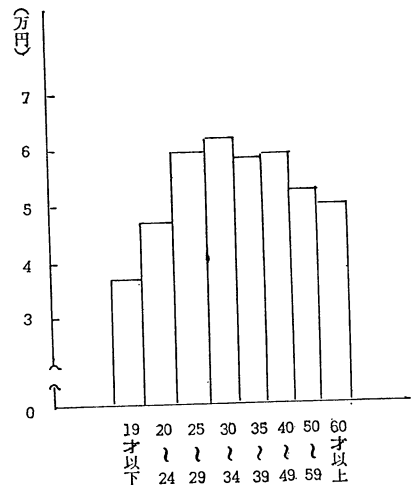
つぎに、定期給与を男女間で比は較してみますと、調査産業計で、男子は65,798円、女子は36,761円、これは男子を100とすると女子は55.9となり、前年（女子53.2）にくらべ格差が縮小しています。

さらに、年齢階層別に定期給与をみますと、調査産業計で30～34歳が61,262円と最も高くなっています。ついで25～29歳層がこれに続き、小規模事業所の給与体系は30～34歳層を基点に、むしろ若年層に厚くなる傾向にあるといえます。

（図2）製造業においては、25～29歳層の定期給与が最も高くなっています。

図2 年齢階層別1人平均定期給与

（調査産業計）



### ○特別給与（特別に支払われた給与）

47年1月から12月までの1年間に支払われた特別給与は、査産業計で106,988円、これは前年にくらべ5,861円の増加ですが、対前年上昇率をみますと各産業とも46年の伸びを下回っています。

産業別にみますと、サービス業の133,003円が最も高く、定期給与にたいする支給割合でも、2.73カ月分と最も大きくなっています。

また、特別給与を企業規模別にみますと、企業規模間の格差は大きく、規模30人以上の214,812円（100）にたいし、規模1～29人では93,167円（43.4）となっています。

さらに支給割合においても規模30人以上の3.24カ月分にたいし、規模1～29人では1.76カ月分で、1.47ガ

月分のひらきがあります。

○出勤日数

月間出勤日数は、調査産業計で24.1日、これは前年の24.3日にたいし0.2日の減となっています。

出勤日数を産業別に前年とくらべてみますと、製造業において0.1日増加したほか、各産業とも0.1日～7.8日の減となっています。

また男女別では、男子の24.1日、女子23.9日、通勤住込別では、通勤者23.9日、住込者25.8日となっています。

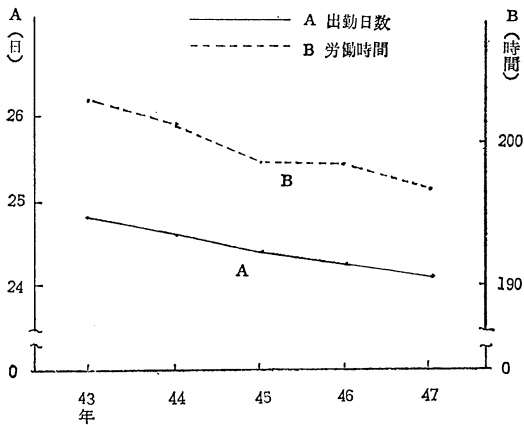
○労働時間

月間実労働時間は調査産業計で、1人平均197.0時間、これは前年の198.2時間に比べ1.2時間の減となっています。

企業規模別にみますと、規模30人以上の201.3時間にたいし、規模1～29人では196.5時間少なくなっています。

出勤日数および労働時間の減少傾向は変わらず、43年からの動きは図にみるとおりです。(図3)

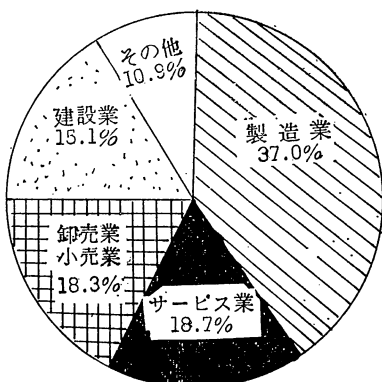
図3 月間出勤日数および労働時間の推移



○雇用の動き

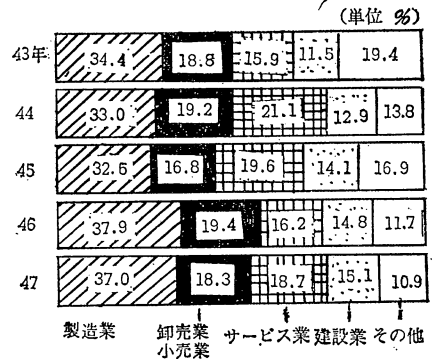
調査産業計における推計労働者数は184,417人、こ

図4 労働者の産業別構成



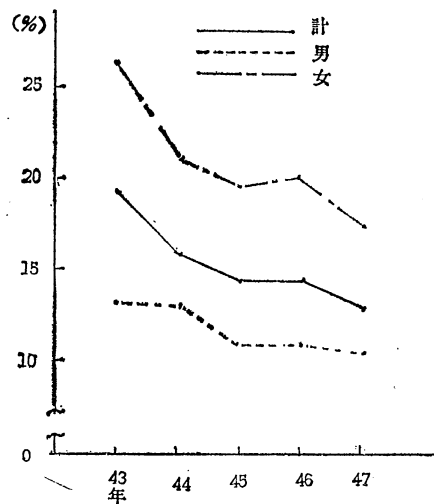
のうち男子は60.6%を占めています。産業別構成では、製造業が68,249人と最も多く、全体の37.0%を占めています。ついで、サービス業34,454人(18.7%)、卸売業・小売業33,783人(18.3%)、建設業27,774人(15.1%)となっています。また産業別構成の動きは図5に示すとおりです。(図4, 図5)

図5 産業別労働者構成比の推移



また、常用労働者の通勤・住込別構成をみますと、通勤者は全体の86.5%、住込者は13.5%となっています。これを男女別にみますと、男子住込者は男子労働者の11.2%、女子住込者は女子労働者の17.0%で、住込者の割合では女子の方が高くなっています。しかしながら住込者の割合は低下傾向にあり、とくに女子の低下は著しい。(図6)

図6 労働者中に占める住込者の割合



常用労働者の平均年齢は35.3歳で、前年にくらべ0.3歳高くなっています。男女別にみますと、男子の34.9歳にたいし女子は35.9歳で、女子が1.0歳高くなっています。